

東郷池における環境省モニタリングサイト1000調査

○前田 晃宏¹⁾、森 明寛²⁾、成岡 朋弘¹⁾、盛山 哲郎¹⁾、永松 大³⁾、山ノ内崇志⁴⁾、加藤 将⁵⁾

1) 鳥取県衛生環境研究所、2) 鳥取県水環境保全課、3) 鳥取大学、4) 福島大学、5) 日本国際湿地保全連合（現 新潟大学）

はじめに

- モニタリングサイト1000調査は、「新・生物多様性国家戦略」に基づいて環境省生物多様性センターが実施している長期的な生態系モニタリング事業。
- 森林、湖沼など多様な観測サイトを全国に約1000ヶ所設定し、1~5年ごとに約100年モニタリングし続けることを目指している。
- 地理的バランス、多様性、緊急性、実行可能・継続性、社会的ニーズ、現地のサポートなどを勘案した結果鳥取県中部に位置する東郷池が「陸水域調査（湖沼）水生植物」の調査サイトの1つとして選定（代表者 森 明寛）された。
- 東郷池は、面積4.1 km²、平均水深1.8 m、最大水深3.6 mの富栄養化した汽水湖。湖内の浅場には多様な水生植物が見られ、年によっては夏場には漁業（特産のシジミ漁）の妨げになるほど大発生する。
- 平成30年9月5日~6日の日程で第一回目の調査が実施されたので、その結果について報告する。



図1 東郷池航空写真

調査方法

- 湖内の定点でボート上より採集器を用いた複数回（5回程度）の採集を行い、種を確認し出現頻度を記録する。（定点調査）
- 湖辺の非定点を踏査し、目視、徒手、採集器などで種を確認する。（補完調査）
- 水生植物の生育に関わる情報として、透明度（必須）、電気伝導度（必須）、水温、pH、光量子数を記録する。
- 採取されたサンプルの一部は、標本にして保存する。

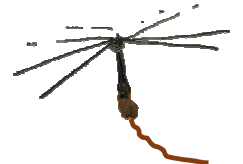


図2 水草採集器

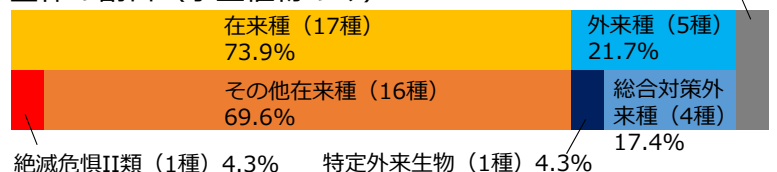
調査結果

植物	科	和名	生育形	備考
サトイモ科		アオウキクサ	浮遊	
		ウキクサ	浮遊	
トチカガミ科		クロモ	沈水	
		セキショウモ	沈水	地域重要種
		イバラモ	沈水	今回初確認
		オオカナダモ	沈水	外来（総対）
		コカナダモ	沈水	外来（総対）
ヒルムシロ科		エビモ	沈水	
		オオササエビモ	沈水	
		ヤナギモ	沈水	
水生植物	アヤメ科	キショウブ	抽水	外来（総対）
カヤツリグサ科		イヌホタルイ	抽水	
		ウキヤガラ	抽水	
イネ科		キシウスズメノヒエ	抽水~湿性	外来（総対）
		クサヨシ	抽水~湿性	
		マコモ	抽水	
		ヨシ	抽水~湿性	
マツモ科		マツモ	沈水	
アリノトウグサ科		オオフサモ	抽水	外来（特定）
		ホザキノフサモ	沈水	
ミンハギ科		ヒシ	浮葉	
藓（セン）類		藓類の1種	(沈水で確認)	

植物	科	和名	備考
カヤツリグサ科		カヤツリグサ属の1種	
		カヤツリグサ	
イネ科		イヌビエ	
		ウシノシッパイ	
		オオクサキビ	外来（総対）
		カモノハシ	
水生・陸生	マメ科	クサネム	
	ワリ科	ゴキヅル	
	アカバナ科	チョウジタデ	
	タデ科	オオイヌタデ	
		シロバナサクラタデ	
	シロネ科	シロネ	
	キク科	アメリカタカサブロウ	外来
	アオサ藻類	アオノリ類の1種	
		シオグサ類の1種	

未同定分類群
(1種) 4.3%

全体の割合（水生植物のみ）



まとめ

- 今回初確認となったイバラモのほか、絶滅危惧種のミズオオバコが再確認されるなど、東郷池に多様な水生植物が生息していることが改めて確認できた。
- 今回の調査で発見された種のおよそ20%が外来種であり、特定外来生物も確認されていることから、今後も注視が必要である。
- 本調査の目的は生物相の長期的な監視であり、次回の調査は令和5年に予定されている。今後も調査に協力していきたい。